



序 文

東京医科大学理事長

高 島 秀 勝

東京医科大学五十年史が刊行されることになった。前理事長佐々一雄氏が序文をお書きになる筈であったが、昭和四十五年二月に亡くなられたので私が代りに執筆する事になった。

長い間私共が待望していた本学五十年史の刊行されたことは慶ばしい次第である。

本学の前身東京医学専門学校が、大正七年四月十一日に設立認可されたが、その以前に大正五年九月十一日に東京医学講習所が開設された。昭和二十一年五月十五日に東京医科大学に昇格した。東京医学講習所開設より五十年を経た昭和四十一年十一月十二日より三日間に亘り本学園創立五十周年記念祝典が盛大に挙行された。

本学に於ては創立五十周年を記念し将来の発展を期して種々考慮して居たが、折しも校友を中心とする大学関係者が創立五十周年記念会館を建設し、大学へ寄贈されたことは感激に堪えないところである。その以前より大いに於ては本学創立五十周年を機に五十年史の編纂刊行の必要を認め、その五十年間の資料を蒐集保有している原三郎教授に執筆を依頼していた。尚上記の卒業生を中心とする大学関係者により設立された東京医科大学創立

五十周年記念会に於ても記念会館建設と共に大学五十年史の刊行を決定して執筆を原教授に依頼してあったので、大学及び記念会の両者が合体して編纂刊行を同氏に委嘱した次第である。

大正五年からの本学園の苦難草創期から戦後大学に昇格して既に二十五年全期間を通じての五十年の歴史は真に苦闘の歴史である。他学に類を見ない五十年の歴史は本書によって明かとなり、過去五十年を回顧し将来への発展を念願することは真に有意義のことと思考するものである。

本書五十年の歴史は大正五年より昭和四十一年の間の記述であり、その後の最近数年間の歴史には触れていないが、他日の歴史に加えられるべきである。

原三郎名誉教授の長き年月の御苦心に対し深く謝意を表したい。余人ならば不可能なる難事業であったと想像してその労を多としている。

本学関係者は勿論、一人でも多くの方が一読されて本学を理解して下さることを願って止まないものである。

昭和四十五年十月